様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　４ 月 １１ 日現在

機関番号：２４４０５
研究種目：若手研究
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ１７６４４

研究課題名（和文）我が国の少子化対策に貢献する在日コリアンコミュニティの家族形成の実態解明

研究課題名（英文）Current status of family formation in Korean community in Japan (zainichi Korean community)

研究代表者
高　知恵（椿知恵）（Koh, Chie）

大阪公立大学・大学院看護学研究科　・講師

研究者番号：６０５８２３１９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,200,000円

研究成果の概要（和文）：在日コリアンコミュニティに居住する在日コリアン母親への聞き取り調査から、コミュニティの共通する規範、価値観、理解を伴ったネットワークが長い年月を経ながら在日コリアンにとっての「安心と絆をうむコリアンコミュニティ」となっており、このようなソーシャル・キャピタルの醸成が多子、育児を肯定的に捉え、家族形成を支えている可能性が示された。
加えてリプロダクティブ世代の在留外国人への妊娠・出産・育児期支援を検討する上では、在留外国人への看護を実践する看護職者の苦手意識があることが明らかとなった。外国人への保健指導には、言語的課題と同時に文化や風習も踏まえた指導、対象者中心の指導を検討する必要性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究では、伝統的儒教の価値観の強い在日コリアンコミュニティというマイノリティな社会において、在日コリアン母親の育児を支えるコリアンコミュニティのソーシャル・キャピタルの醸成について明らかになった。
加えて、在日コリアン以外のコミュニティにおけるソーシャル・キャピタルの適応可能性も示唆された。民族的マイノリティが同じ背景の集団、仲間を頼る傾向、似たような境遇の者同士のつながりを大事にするという先行研究もあり、今後も増加が予測される在留外国人妊産褥婦の孤独を予防し、育児を支えるためにはコミュニティのチカラが重要であることが示唆され、今後のグローバル社会においての高い社会的意義が認められた。

研究成果の概要（英文）：We conducted semi-structured interviews with 10 zainichi mothers living in zainichi Korean communities in Japan. We qualitatively and descriptively analyzed the family planning and SC supporting childcare in this population.Networks with common norms, values, and understanding facilitated cooperation among zainichi mothers. “The zainichi community that fosters security and bonding” may support family formation through a positive perception of child-rearing. Additionally, as a result of examining support for foreign mothers of the reproductive generation, it became clear that nurses who care for foreign mothers are not good at it. In health guidance for foreign mothers, it was suggested that it is necessary to consider guidance based on culture and customs as well as linguistic issues, and health guidance centered on the target person.

研究分野：生涯発達看護学

キーワード：在留外国人　在日コリアン　コミュニティ　ソーシャル・キャピタル　妊産褥婦支援

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

日本および隣国の韓国では少子化が大きな課題となっている。在日コリアン社会も同様に少子化傾向にあるが、コリアタウンに居住する在日コリアンは子どもの数が多いと言われている。日本でも沖縄県、特に離島では出生率が高いが、大都市の中にあるコリアタウンという地域で子どもの数が多いという事実の要因は何なのだろうか。沖縄県は他の都道府県に比べて、共同社会的な精神が残っており、子どもを産めばなんとか育てていけるという説がある。少子化が深刻な課題となる前の日本でもこのように地域全体で子どもを見守り、地域の構成員間での支援もあり、地域の中で安心して子育てできる環境が整っていた。同様に、コリアタウンに居住する在日コリアンはコミュニティ内でのサポートを受けながら、子どもを産み育てることができており、コミュニティ内に少子化に役だつ要因があると考えられるが、コリアンコミュニティ内にある子育て資源、ソーシャル・キャピタル（SC）は明らかになっていない。

２．研究の目的

（1）コリアンコミュニティに居住する在日コリアンは、コリアンコミュニティ以外に居住する在日コリアンに比べて子どもの数が多いという先行研究結果に着目し、在日コリアンコミュニティ内にどのような子育て支援になりうる資源があり、子育て期の男女がどのようにその資源を活用しているのかについて明らかにする。加えて、在日コリアンコミュニティ内での好循環を日本のコミュニティに適応させることで、都市型家族形成モデルを提唱し日本における少子化対策の一助とする。

（2）伝統的儒教の価値観が強いことから家事育児の多くを担っている在日コリアン母親たちの、育児支援のニーズを明らかにしニーズに沿った育児支援について検討する。

（3）日本に居住する在留外国人の母子保健に関連する指標を調査し、在留外国人の母子保健上の困難や特徴を明らかにする。そこから在留外国人への助産および看護支援について検討する。

（4）周産期施設で在留外国人褥婦への看護を実践する助産師を対象に、在留外国人褥婦への保健指導を実施する時の思いや保健指導実践時の負担感、ストレスについて、質問票および生体マーカーである尿中バイオピリン値から明らかにする。

３．研究の方法

（1）コリアンコミュニティに居住する育児期の在日コリアン母親 10 人を対象に、「現在の家族形成までの過程やその時々の思い」、「家事・育児を支えるソーシャル・キャピタル（SC）」に関する半構成的インタビュー調査を実施した。

（2）日本で生まれ育った 20 歳以上 45 歳以下の在日コリアン母親 316 名を対象に、妊娠・分娩・産褥・育児期の現状や、その際に生じる困難などについてアンケート調査を実施した。

（3）現在日本で増加している在留外国人に着目し、周産期施設における在留外国人の母子保健に関する指標を日本人と比較した。20 歳以上の在留外国人約 200 人と日本人約 400 人を対象に電子カルテから情報を収集し、後方視的研究を行った。

（4）周産期施設で在留外国人支援を実践する助産師を対象に、外国人褥婦への保健指導時の思いとその時のストレスについて質問票および生体マーカーである尿中バイオピリン値から明らかにした。

４．研究成果

（1）在日コリアン母親 10 人のインタビュー調査から、「現在の家族形成に至った思い」として、12 サブカテゴリー、３カテゴリーを、「育児を支える SC」として、11 サブカテゴリー、4 カテゴリーを抽出した。コリアンコミュニティに居住する在日コリアン母親は、【子産み、子育てへの思案】をしながらも、【意識する結婚観】と【多子・家族形成への肯定的な思い】を抱きながら家族形成に至っており、【利用したくても利用しにいく家事育児支援】への不満足感はあるが、【安心と絆をうむコリアンコミュニティ】の中で【実質的にも精神的にも家事育児の支えとなる人たち】と【家事育児の一助となるサービス】を上手く活用することが、育児を支えるＳＣの醸成となっていた。コリアンコミュニティの共通する規範、価値観、理解を伴ったネットワークは長い年月を経ながら在日コリアン母親にとっての【安心と絆をうむコリアンコミュニティ】となっており、このような SC の醸成が多子、育児を肯定的に捉え、家族形成を支えている可能性が示された。

（2）質問紙の配布数は 316 部で、有効回収は 117 部(有効回収率 37.0%)であった。対象女性の

平均年齢は 37.26±4.54 歳(範囲：23～45 歳)であった。子どもの平均人数は 1.9±0.8 人(範囲：1～4)であり、中央値は 2.0 であった。2 名以上の子どもがいる対象者に対しても、年齢の低い 2 人の子どもについてのみ回答していただき、合計 197 件の「子どもについての回答」を得た。母子保健に関する指標では、妊娠中の体重増加の平均値は 11.00±3.96 kg(範囲：０～30)、妊娠中の異常については、「切迫早産」48.6%が最も多かった。分娩週数の平均値は 39.1±1.5 週、分娩方法は「自然分娩」73.0%、「帝王切開」18.9%であった。出生児の体重は、平均 3122.5±394.2g であった。

妊娠、分娩、産褥、育児期に生じる困難としては、「上の子の育児」として、上の子との時間が辛すぎる、上の子の食事作り、第 1 子のイヤイヤ期、上の子の学校や習い事の送り迎え、などが困難であり、「仕事・職場関係」では、仕事の調整、職場で嫌味を言われた、つわりの時に通勤電車が満員で辛かった、などであった。「分娩期に困ったこと」の内容で多かったのは、上の子の預け先、陣痛が長く苦しんだ、などであった。「産褥、育児期に困ったこと」で多かったのは、夜泣き・睡眠不足、上の子の育児との両立、疲労・体調不良、などであった。在日コリアン女性の妊娠、分娩、産褥、育児期における困難では、マイナートラブルに関する困難、複合育児に関連する困難、職業を継続していく中での困難が多かった。主体的な出産、育児のためには妊娠中のマイナートラブル予防や軽減のための指導、比較的支援の少ない経産婦への支援、また、妊産婦へのやさしい環境作りのためには早い段階からの教育が必要であり、妊娠期から育児期を通した切れ目ない支援のために、ますます助産師の役割が期待されることが示唆された。

（3）周産期センターで出産した 20 歳以上の在留外国人 170 人と、日本人 316 人を分析対象とした。在留外国人の背景としては、国籍別で中国 52.6%、ベトナム 23.7%、フィリピン 8.7%、の順で多かった。日本語能力は、「理解できる」62.4%、「少しは理解できる」23.1%、「まったく理解できない」14.5%であった。「妊娠中の体重増加」の平均は 12.1±5.0 kg、「妊婦健診を定期的に受診していない」割合は 4.6%、「両親学級を受講しなかった」割合は 82.1%、「喫煙者」割合は 3.5%であった。主な妊娠期合併症は、前期破水 27.2%、妊娠貧血 26.6%、妊娠糖尿病 13.9%、妊娠高血圧症候群 6.4%であった。

在留外国人と日本人の妊娠中の体重増加と分娩様式、分娩時出血量、児体重との関連では、日本のガイドラインに沿った推奨体重増加との関連では、外国人、日本人共に、推奨体重増加群、過剰群、過少群の 3 群間で、分娩様式、分娩時出血に有意差はなかったが、Institute of Medicine（IOM）ガイドラインに沿った分類では、外国人でのみ分娩様式に有意差を認めた（$p<0.001$）。一方、児体重および在胎別出生時体格基準は、両ガイドラインで、外国人、日本人共に有意差を認めた。外国人、日本人共に、妊娠中の体重増加は児体重と関連があった。Light for date 児や Heavy for date 児の周産期リスクは高いことが報告されており、母子のリスク軽減のためにも妊娠中の体重増加を推奨体重範囲内とすることが重要である。また、外国人妊婦には IOM ガイドラインに沿った保健指導の必要性も示唆された。

（4）在留外国人を多く受け入れている総合周産期母子医療センター 1 施設で産褥保健指導を担当する助産師 17 人から研究同意を得た。外国人褥婦担当時と日本人褥婦のみ担当時の 2 回の質問票への回答および尿中バイオピリン値が採取された 12 人を分析対象者とした。対象者の平均年齢は 23.8±1.2 歳、助産師経験年数は 12 人全員が 3 年目以下であった。保健指導時の思いは、外国人褥婦担当時に「時間がかかる（$p=0.001$）」、「手間がかかる（$p=0.023$）」、「苦手である（$p=0.035$）」、「負担である（$p=0.024$）」、「理解できたか気になる（$p=0.007$）」の項目が有意に高かった。ストレスに関しては、Stress Response Scale（SRS)-18 の 3 つの下位尺度と合計得点、バイオピリン値の全てにおいて、外国人担当時と日本人のみ担当時の 2 群間で有意差はなかった。助産師は、外国人褥婦への保健指導時に負担感や困難感などの思いを抱く一方で、自由記述の内容からは、言語の壁を越えながら関係性を築き、やりがいや喜びを感じている者もいた。ストレス値は主観的、客観的評価のどちらにおいても高値ではなかった。外国人褥婦への看護体験での喜び、成功体験は助産師実践能力の向上にもつながる。助産師の負担感軽減には、複数人受け持ちの際に外国人褥婦に十分な指導時間が確保できるよう、受け持ち対象者数や勤務内容の配慮が支援の一つとなりうる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 髙知恵、松尾博哉	４．巻 62（4）
２．論文標題 在日コリアン女性が育児期に期待される複数役割を遂行する際に生じる困難性の質的検討	５．発行年 2020年
３．雑誌名 保健の科学	６．最初と最後の頁 279－285
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 髙知恵、松尾博哉	４．巻 74（9）
２．論文標題 育児期在日コリアン女性の妊娠、分娩、産褥、育児期の現状　第1報母子保健に関する指標と母子保健制度利用状況	５．発行年 2020年
３．雑誌名 助産雑誌	６．最初と最後の頁 688－692
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 髙知恵、松尾博哉	４．巻 74（10）
２．論文標題 育児期在日コリアン女性の妊娠，分娩、産褥、育児期の現状　第２報妊娠期、分娩期、産褥期、育児期に生じる困難	５．発行年 2020年
３．雑誌名 助産雑誌	６．最初と最後の頁 780-784
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Chie Koh, Takako Chiba, Ryoko Yoshida, Misato Kato, Maho Mori, Akiko Morimoto, Yukari Nakajima, Kanako Yamada, Miho Furuyama, Minako Saho, Kaori Watanabe	４．巻 37（4）
２．論文標題 Differences in gestational weight gain in accordance with Japanese and Institute of Medicine guidelines between Japanese and non-Japanese Asian pregnant women at a perinatal medical center in Japan	５．発行年 2023年
３．雑誌名 Journal of International Health	６．最初と最後の頁 179-188
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11197/jaih.37.179	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計17件（うち招待講演　0件／うち国際学会　5件）

1．発表者名 Chie Koh, Ruruko Miyashita
2．発表標題 Difficulties with pregnancy, childbirth, puerperium, and child care among Korean mothers residing in Japan (zainichi Korean mothers) and how they deal with them
3．学会等名 International　Conference of Nurses 2021 Congress（国際学会）
4．発表年 2021年

1．発表者名 Chie Koh, Takako Chiba, Ryoko Yoshida, Misato Kato, Maho Mori, Kanako Yamada, Miho Furuyama, Yukari Nakajima, Minako Saho, Akiko Morimoto, Kaori Watanabe
2．発表標題 Delivery periods by nationality among pregnant Asian women residing in Japan
3．学会等名 The 36th Congress of Japan Association for International Health
4．発表年 2021年

1．発表者名 髙知恵、千葉貴子、吉田涼子、加藤美里、森真穂、山田加奈子、古山美穂、中嶋有加里、佐保美奈子、渡邊香織
2．発表標題 総合周産期母子医療センターで出産した在住外国人妊婦の国籍・出身地別の妊娠期に関連する指標の実態
3．学会等名 第36回日本助産学会　学術集会
4．発表年 2022年

1．発表者名 加藤美里、髙知恵、森真穂、吉田涼子、千葉貴子、山田加奈子、古山美穂、中嶋有加里、佐保美奈子、渡邊香織
2．発表標題 総合周産期母子医療センターで出産した在住外国人妊産婦の妊娠期に関連する指標の実態
3．学会等名 第36回日本助産学会　学術集会
4．発表年 2022年

１．発表者名 森真穂、髙知恵、吉田涼子、加藤美里、千葉貴子、山田加奈子、古山美穂、中嶋有加里、佐保美奈子、渡邊香織
２．発表標題 総合周産期母子医療センターで出産した在住外国人妊産婦の新生児に関連する指標の実態
３．学会等名 第36回日本助産学会　学術集会
４．発表年 2022年

１．発表者名 髙知恵、宮下ルリ子
２．発表標題 在日コリアンコミュニティに居住する育児期在日コリアン母親たちへの健康教育セミナーの実践報告
３．学会等名 第61回日本母性衛生学会学術集会
４．発表年 2020年

１．発表者名 髙知恵、宮下ルリ子、古山美穂、渡邊香織
２．発表標題 在日コリアンコミュニティに居住する在日コリアン母親の現在の家族形成に至った思い
３．学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
４．発表年 2020年

１．発表者名 髙知恵
２．発表標題 在日コリアン母親が複数役割を遂行する際に生じる困難性～質問紙の自由記述の分析～
３．学会等名 第21回日本母性看護学会学術集会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Chie Koh ,Wolsoon Lee , Wooja Yang ,Koonae Park
２．発表標題 Experiences of domestic and dating violence among Korean women residing in Japan
３．学会等名 The 12th International Nursing Conference（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Chie Koh, Hiroya Matsuo
２．発表標題 Current state of maternal and child health indexes, and system utilization for Korean mothers residing in Japan
３．学会等名 The 38th Western Regional Conference of Japan Association for International Health
４．発表年 2019年

１．発表者名 Chie Koh, Hiroya Matsuo
２．発表標題 Current sexual health status of Korean mothers residing in Japan (zainichi mothers)
３．学会等名 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Chie Koh, Hiroya Matsuo
２．発表標題 Factors related to the actual number of children of Korean (zainichi) mothers resident in Japan
３．学会等名 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 吉田涼子、髙知恵、加藤美里、森真穂、千葉貴子、山田加奈子、古山美穂、佐保美奈子、渡邊香織
２．発表標題 外国人妊婦の日本及び国際ガイドラインに沿った妊娠中の体重増加と分娩様式、分娩時出血、児体重との関連
３．学会等名 第63回日本母性衛生学会学術集会
４．発表年 2022年

１．発表者名 谷口朱子、渡邊香織、髙知恵
２．発表標題 日本における外国人妊婦のストレスとその関連要因に関する文献検討
３．学会等名 第63回日本母性衛生学会学術集会
４．発表年 2022年

１．発表者名 Yuko Tanaka, Sayaka Kotera, Chie Koh, Naomi Senba, Kikuko Okuda, Yumiko Ishii
２．発表標題 Malaise of Adolescent Students in Japan Who Have Foreign Roots related with Coping Behavior and the Major Factors
３．学会等名 The 4th IJCNS（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 髙知恵、古山美穂、宮下ルリ子、渡邊香織
２．発表標題 コリアンコミュニティに居住する在日コリアン母親の育児を支えるソーシャル・キャピタル
３．学会等名 第37回日本国際保健医療学会学術集会
４．発表年 2022年

１．発表者名 田中祐子、小寺さやか、髙知恵、千場直美、奥田紀久子、石井有美子
２．発表標題 外国にルーツをもつ思春期児童・生徒の身体的・精神的健康に関する実態
３．学会等名 第37回日本国際保健医療学会学術集会
４．発表年 2022年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関